



高田上ノ段遺跡

第6回

出土文化財展



高田遺跡



毛森山一の谷横穴群



吉岡大塚古墳

日 時：平成22年6月23日(水)～6月27日(日)

※25日(金)は休館日

午前9時から午後5時まで

※23日(水)・24日(木)は午後7時まで

※27日(日)は午後4時まで

場 所：掛川市立中央図書館 1階 生涯学習ホール

掛川市教育委員会 社会教育課

ほたてないがたこふん
珍しい帆立貝形古墳の発掘調査
わだおかこふんぐん よしおかおおつかこふん
和田岡古墳群 吉岡大塚古墳

1. 調査地 掛川市高田
2. 調査原因 史跡整備
3. 調査面積 235 m²
4. 調査期間 平成 21 年 10 月～平成 22 年 3 月
5. 調査内容

国の史跡に指定されている和田岡古墳群のうち、

吉岡大塚古墳は、普通の前方後円墳に比べ前方部が短く、上から見ると帆立貝に似ていることから帆立貝形古墳と呼ばれる、珍しい形の古墳です。古墳が造られた時期は、古墳時代中期（約 1,600 年～1,500 年前）と考えられています。古墳の規模は、全長 55m、後円部の直径が 42m を測り、現状の墳頂部（後円部頂上）の標高は 67.96m、古墳を取り巻く溝（周溝）の底の標高は 60.7m を測ります。掛川市教育委員会では、平成 19 年度から 3 年かけて史跡整備のための発掘調査を行っています。平成 21 年度は、後円部の南側と北側、くびれ部（前方部と後円部がつながる部分）、周溝の外側の縁、前方部の西端の調査を実施しました。



全景（南から）



後円部南側（南から）



後円部北側：テラス（北から）



くびれ部（東から）



前方部裾部分（東から）

吉岡大塚古墳は、墳丘斜面に葺石（古墳の見栄えを良くし、土の流出を防ぐためと考えられている）がありますが、後円部では、墳丘の裾には明確な葺石が見られませんでした。また、くびれ部でも葺石の残り具合は良くありませんでしたが、葺石の角度を判断することができました。周溝外側の縁の部分の調査では、墳丘に沿った形であると考えられていた周溝の形が熱気球のような形になることがわかりました。今回の調査では、円筒埴輪の破片、須恵器の破片などが出上しています。



周溝外側の様子（北から）



埴輪が出土した様子

縄文時代晚期の堅穴住居跡を発見 たか ばたけ い せき

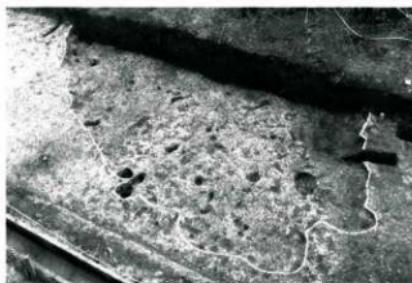
高畠遺跡

1. 調査地 掛川市満水
2. 調査原因 農道の新設
3. 調査面積 852 m²
4. 調査期間 平成 21 年 10 月～12 月
5. 調査内容

遺跡は、逆川の左岸、台状の丘陵地に立地します。調査では、縄文時代晚期（約 3,000 年～約 2,300 年前）の堅穴住居跡 1 軒と土坑 1 などが発見されました。市内で



調査地全景（西から）



堅穴住居跡（北から）



土坑から縄文土器が出土した様子（西から）

縄文時代晚期の竪穴住居跡が発見されているのは、栗下遺跡（八坂）だけなので、貴重な発見となりました。

ほつたてばしらしたものあと
大型の掘立柱建物跡を発見
たかだうえのだんいせき
高田上ノ段遺跡

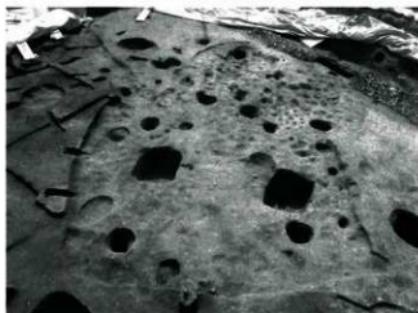
1. 調査地 掛川市吉岡
2. 調査原因 茶畑の改植
3. 調査面積 700 m²
4. 調査期間 平成21年6月～平成22年1月
5. 調査内容

調査地は、原野谷川によりつくられた吉岡原と呼ばれる河岸段丘のやや東よりの場所に位置します。調査地の北西には吉岡大塚古墳があります。

調査では、弥生時代後期（約1,800年前）の竪穴住居跡5軒、古墳時代前期（約1,700年前）の竪穴住居跡5軒、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての掘立柱建物跡9棟、古墳時代中期の古墳1基などが発見されました。竪穴住居跡のうち2軒は火災で焼失したので、「たるき」（屋根をささえる建築部材）や「かや」（屋根材）が炭となって発見されています。掘立柱建物跡は、建物の向きから3種類に分けることができます。また、掘立柱建物跡には、3.6m×7.3mの大きさのものが1棟ありました。これは、市内で調査されたこの時期の掘立柱建物跡のうちの大きなもののひとつです。古墳は、調査区の北東隅から、古墳のまわりに掘られた周溝と考えられる、ゆるやかにカーブする幅約1.3mの溝が発見されました。古墳の直径は、約10mの大きさと考えられます。



弥生時代後期の竪穴住居跡



古墳時代前期の竪穴住居跡



大型の掘立柱建物跡



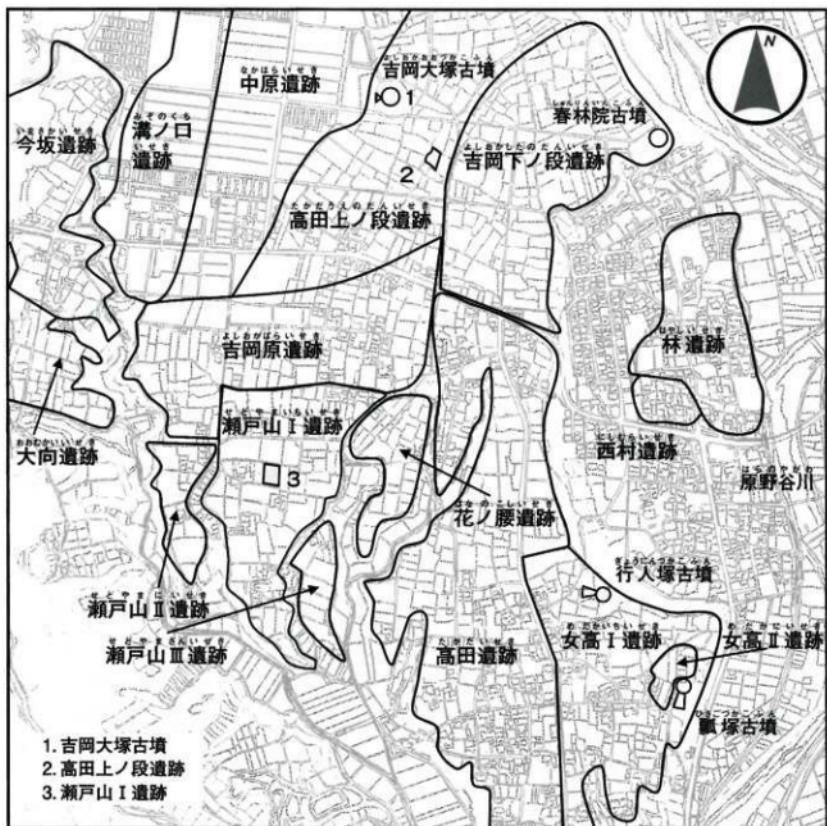
古墳の周溝



土坑から遺物が出土した様子



火災で焼失した竪穴住居跡の炉跡と壺
が出土した様子



古墳時代後期の集団墓地を発見
け もりやまいち たにあいよこあなぐん
毛森山一の谷 I 横穴群

1. 調査地 掛川市中
2. 調査原因 市道改良工事
3. 調査面積 1,160 m²
4. 調査期間 平成 22 年 1 月～3 月
5. 調査内容

横穴とは、丘陵の斜面に横に穴を掘り、死者を葬る部屋をつくった古墳時代後期（約 1,400 年前）

の墓です。今回の調査では、5 基の横穴を調査しました。そのうち 4 基は、天井がくずれ落ちており、保存状態は良くありませんでした。

横穴の内部には、死者を安置したと考えられる小石を敷いた跡や、石の台、石の棺などが見られ、死者に供えられた土器などが出土しています。また、この横穴群の横穴 4 基が、丘陵斜面の東側、東向きか南向きに入り口がつくれられているのに対し、1 基だけ反対側の斜面、西向きに入り口がつくれているものがありました。



横穴の中の様子（奥から入り口を見る）



横穴の入り口の様子



死者を安置した台と供えられた土器

ここからは、平成 21 年度に報告書がまとめられた遺跡について紹介します。

せどやまいちいせき
瀬戸山 I 遺跡（高田）

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）から古墳時代前期（約 1,700 年前）の竪穴住居跡 30 軒、掘立柱建物跡 6 棟、古墳時代中期（約 1,600 年前）の竪穴住居跡 2 軒が発見されました。竪穴住居跡は密集し、重なり合っていたので、同じ場所で何回も建てられたことが考えられます。

遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器があります。また、古墳時代中期の竪穴住居跡から出土した壺につまっていた赤い顔料は、分析の結果、酸化鉄（さびた鉄）が主な成分であるベンガラという顔料であることがわかりました。



ベンガラがつまっていた壺

こみょういせき
古明遺跡（菌ヶ谷）

幅1.4mの狭い範囲の調査でしたが、小穴3と性格不明遺構1、整地層が検出されました。古墳時代後期（約1,450年前）から奈良時代（約1,250年前）の土器がまとめて出土しました。土器のなかには、集落からはあまり出土しない種類のものも含まれていました。

幅の狭い限られた面積の調査でしたので、整地層の性格ははつきりしませんが、ていねいに整地を行っている様子が見られるため、道路などの遺構を考えられます。

**開発予定地内に遺跡はありませんか？
工事計画の前に確認してください。**

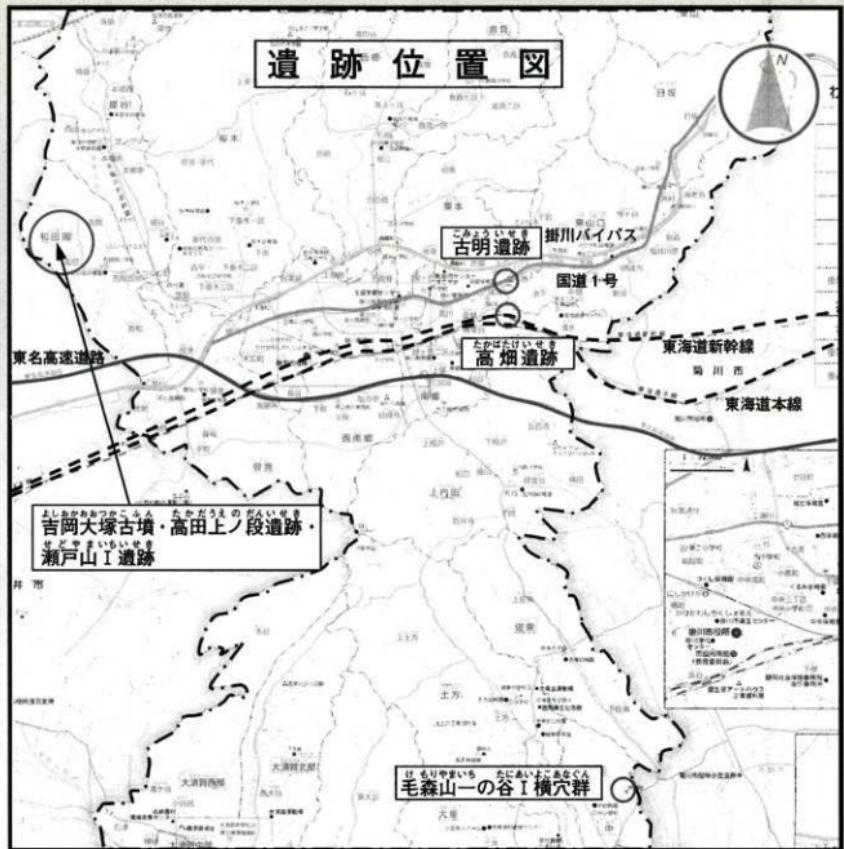
掛川市内には現在702遺跡が知られており、県内でもいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと”であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった——ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館・支所には、市内にある遺跡の様子を示した『遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

**掛川市教育委員会 社会教育課 文化財係
電話(0537)21-1158**



めいわ
明和 9 年(1772)5月 21 日(陰暦)、現在の長谷小出ヶ谷
地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。
掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財
に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、
出土文化財展を開催しています。



文化財愛護シンボルマーク



優しくやさしい
動物性大豆油インキを
使用しています。